

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 28日は、気圧の谷が日本付近を通過し、高気圧が日本海へ移動する。
- 29日は、高気圧が北日本付近を通過する。前線が東シナ海へのびる。
- 30日は、高気圧が日本の東へ移動する。前線が西日本付近へのび、前線上に低気圧が発生する。
- 31日は、低気圧がサハリン付近に進み、前線が北日本付近を通過する。低気圧が本州南岸付近を東進する。
- 4月1日は、低気圧が日本の東に進み、前線が日本の南へのびる。

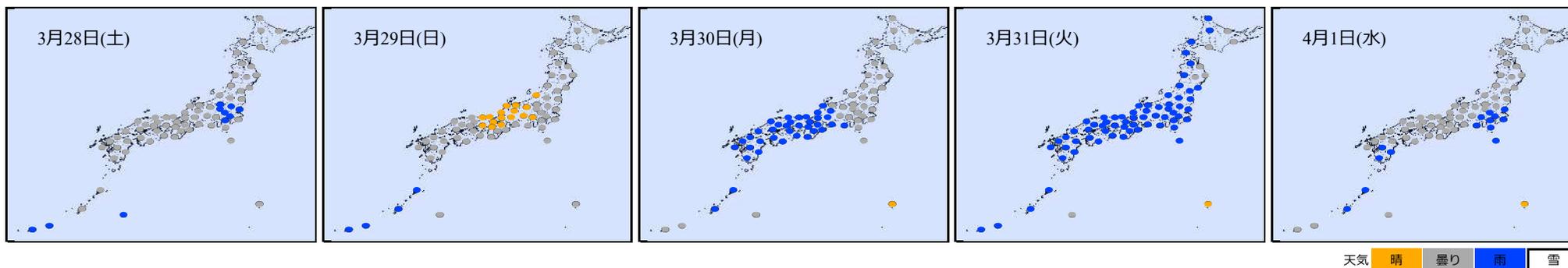
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

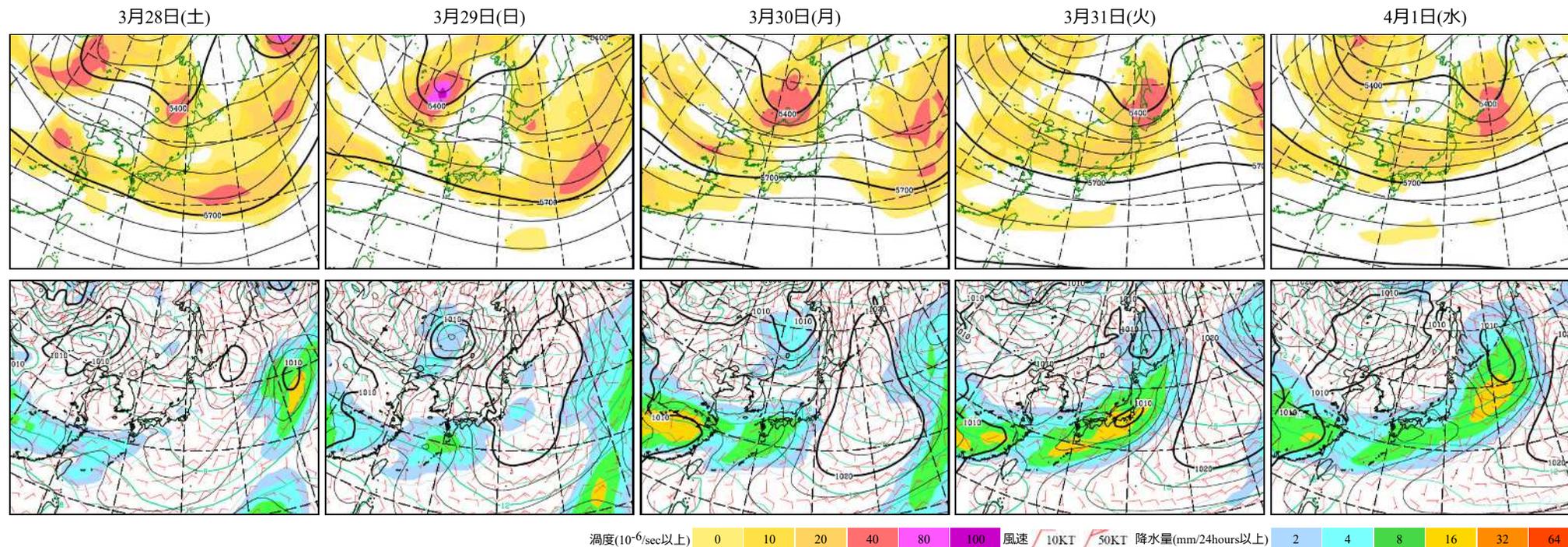
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

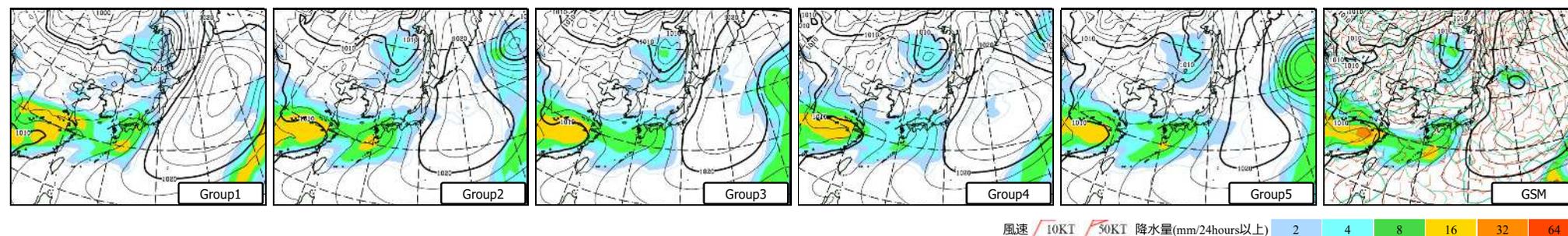


- 北日本は、雲が広がりやすく、31日は雨または雪の降る所がある。
- 東日本と西日本は、曇りや雨の降る日が多いが、29日は晴れる所もある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆3月30日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、30日は、西日本南岸付近にのびる前線が明瞭となり、西日本付近の降水確率ガイダンスが大きくなった。
- 30日の低気圧の位置は、各モデルの予想のばらつきがみられ、降水域の広がり是不確実性大きい。
- スプレッドは期間の終わりやや大きく、5400mの特定高度線のばらつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。